

外貨投資の視点 (No.340)

リサーチ部 チーフ為替ストラテジスト 植野 大作

2017年7月1日

ドル円相場日誌【2017年6月版】

「ドル円相場日誌」を月次で配信する目的

三菱UFJモルガン・スタンレー証券リサーチ部では、お客様にご提供させて頂く為替関連情報の拡充を目的として、2012年10月分を皮切りに「ドル円相場日誌」を「外貨投資の視点」の一環として発行することに致しました。内容は毎月のドル円相場の変動及びその背景となった主な材料やマーケット・トーク等の「備忘録」です。「温故知新」という四字熟語を改めて引用するまでもありませんが、為替相場の潮流変化を読み解く際には、必ずしも「鮮度の高い情報」ばかりが有用ではなく、むしろ日々蓄積されては忘却の彼方へ埋もれていく「古い情報の回顧録」の中に相場観涵養の「ヒント」が潜んでいる場合もあります。ドル円市場参加者の皆様が日々の為替変動と向き合う際の参考情報としてご活用いただければ幸いです。

「ドル円相場日誌」ご利用上の注意点

なお、この忘備録では日々のオセアニア、東京、ロンドン、ニューヨーク(NY)の各市場で注目された材料やマーケットの噂などを網羅的に記載することを心掛けていますが、原則としてドル円相場で材料視されたものが中心であり、他通貨市場で話題になった場合でも、ドル円相場に甚大な影響を及ぼさなかったとみられるものは記載していません。また、各営業日の日付は、月曜日の場合にはオセアニア市場の早朝、それ以外の営業日については東京市場の朝方からNY市場の夕刻までを1日として取り扱っております。日本時間の0:00から24:00が日付認知の基準ではございません。このため、日本時間24:00を超える時間帯に相場を動かした材料の記述に際しては、例えば深夜3:00なら27:00と記載し、NY市場の引けまでを同営業日内の出来事として取り扱っています。

「ドル円相場日誌」のデータ・ソースと配信日時

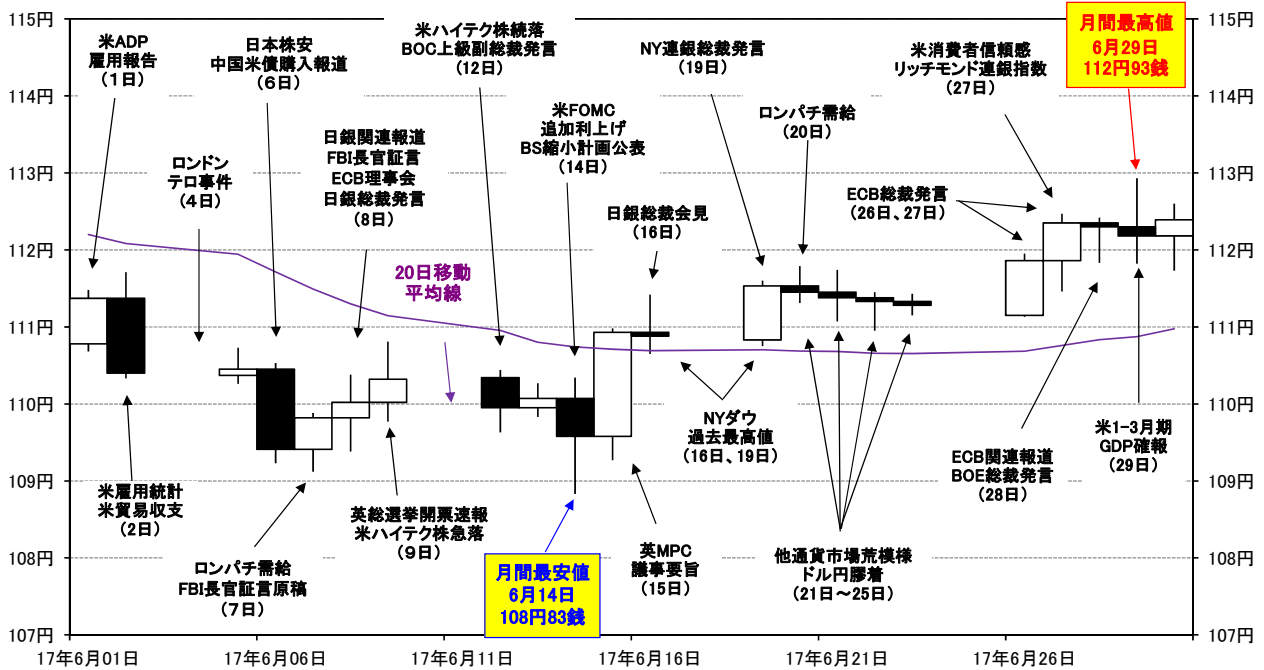
文中の青字で下線を引いた値は、当該時点でのドル円相場の月初来安値、赤字で下線を施した値は同じく月初来高値です。また、本文中に記載するドル円相場の数値については、ブルームバーグ社提供のBGNデータを用いておりますが、レート配信元の違いなどにより、当日の高値や安値に関して他のソースと比べた際に微妙な違いがある場合がございますのでご留意下さい。配信日時は原則として、当該月終了翌月の上旬といたします。次回2017年7月分の配信は、2017年8月上旬の予定です。

.....(次ページ以降に月間の材料日足対応グラフと本文を掲載).....

米国内で配布される場合：本レポートは、機関投資家向けに作成されたものであって、負債性有価証券に関するリテール投資家向けのリサーチレポートであれば適用される一連の独立性及び開示の基準については、そのすべての適用を受けるわけではありません。本レポートは、MUSA 又は MUMSS が保有する利害との関係において、独立性を有さない可能性があります。MUSA 及び MUMSS は、自己勘定において又は顧客のため行う一任運用の一環として、本レポートで取り上げた有価証券の取引を行っています。このような取引による利害は、本レポートにおいてなされる推奨と相反する場合があります。本レポートの末尾に記載されているアナリストによる証明事項及び重要な開示事項をご覧ください。

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

図1:ドル円相場(日足):2017年6月の歩み



出所:ブルームバーグより三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成

6月1日(木)

東京時間帯は強含み。日本時間6:00に便宜上の始値として110円78銭を刻んだ後、直後に小緩み一時110円68銭と日通し安値を記録する場面もあったが、このところ軟調に推移していた日経平均株価が5営業日ぶりに反発、米10年国債利回りの上昇も追い風に一時111円07銭付近に値を上げる。市場予想を大幅に上回った豪4月小売上を好感して上昇していた豪ドル円が市場予想を下回る中国5月財新製造業購買部協会指数(PMI)の結果を受けて急落すると米ドル円も失速、一時110円84銭界隈に押し戻される一幕もあったが、後場の日経平均株価が上昇幅を拡大すると市場のリスクセンチメントが改善、午後には一時111円20銭と午前中の高値を上抜け。欧州時間帯に入り、序盤は手掛かり材料難で方向感を見失い、111円00銭を挟んだ狭い値幅で一進一退。夜間取引の日経先物の上昇幅拡大が好感されると市場のリスク許容度緩和ムードが広がって断続的な上値探査を再開、一時111円20銭と東京高値を上抜け。NY時間帯に入り、朝方は持ち高調整の売りが先行、111円10銭前後に伸び悩む場面もあったが、米5月ADP全米雇用報告が市場予想を大幅に上回る強い結果になると急伸、一時111円44銭界隈へ続伸。その後に発表された米失業保険新規請求者数が市場予想よりも若干弱めの結果になると一旦反落、111円28銭付近に小緩んだが、「総じてみれば米国の雇用情勢は良好に推移している」との市場解釈が広がると断続的な上値探査を再開、一時111円48銭と日通し高値を記録。日本時間23:00に発表された米5月ISM製造業指数が市場予想を上回る一方、米4月建設支出が市場予想を下回るマチマチの結果になると一旦反落、一時111円10銭台に押し戻されたが、この日の米国市場では主要な株価指標が軒並み堅調に推移、NYダウが3月1日以来、約3ヶ月ぶりに終値ベースで過去最高値を更新したほか、S&P500指数やナスダック総合株価指数も揃って市場最高値を更新したため、ド

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

ルの下値も限定的。引けにかけては買い戻され、111円46銭付近に反発した後、111円40銭前後で東京勢の参入待ち。

6月2日(金)

東京時間帯は堅調。前日のNY市場でドル高・円安が進んだ反動もあり、朝方は持ち高調整の売りが先行、一時111円31銭まで下落したが、前日の米株高を好感して高寄りした日経平均株価が心理的節目の20000円を突破して上昇幅を拡大すると市場のリスク許容度が緩和、午前中に一時111円68銭と前日高値を上抜け。断続的な上値探査が一巡すると一旦伸び悩み、日本時間14:00頃には一時111円54銭付近まで押し戻されたが、後場の日経平均株価が20200円前後の高値圏を維持して引けそうなことが好感されると上値探査を再開、一時111円71銭と日通し高値を記録。日本株引け後に持ち高調整の売りが優勢になると反落したが、111円60銭前後の下値が堅い。欧州時間帯に入り、特段の注目材料見当たらない中、前日にトランプ米大統領が地球温暖化対策の国際的枠組みであるパリ協定からの離脱を表明したことに伴う米シェールオイル等の増産観測がロンドン勢に蒸し返されると原油価格が大幅に下落、カナダドル円の軟化につられて米ドル円も下落、米5月雇用統計発表前の持ち高調整も重石となり、一時111円43銭付近まで値を下げる。原油価格が反発に転じるとクロス円、ドル円ともに切り返したが、米雇用統計の発表時刻接近が意識され、111円50銭台では上値が重い。NY時間帯に入り、朝方は米5月雇用統計の発表直前の打診売りが錯綜、111円38銭付近へ軟化した後、111円55銭界限へ反発。その後、日本時間21:30に公表された米雇用統計で5月の非農業部門雇用者数が前月比+13.8万人と市場予想の同+18.2万人を下回ったことが伝えられると急落、過去2ヶ月分の数値も下方修正されていたほか、平均時給の伸びも前年比+2.5%と市場予想の同+2.6%に及ばなかったこともドル売り材料視され、一時110円59銭と前日安値を下抜け。急ピッチの売りが一巡すると自律反発に転じたが、111円80銭前後の上値が重く、米5月雇用統計と同時に発表された米4月貿易赤字が市場予想より大きかったことも意識され、日本時間24:30過ぎには一時110円33銭と日通し安値を記録。もともと、この日発表された米雇用統計では失業率が前月の4.4%から一段と低下4.3%と16年ぶりの水準に改善していたこともあり、次回6月連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げ織り込み確率は下がらずじまい。米5月雇用統計の内容消化が一巡すると米10年国債利回りが下げ渋ってドル円も反発、ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁が「今年3回の利上げをなお予想」と発言したことも下値を支え、110円50銭台に買い戻される。NY市場の引けにかけては戻りの鈍さが嫌気され、110円36銭付近に反落する場面もあったが、この日の米国株式市場では前日に続いてNYダウ、S&P500、ナスダックの主要3指数が揃って過去最高値を更新して引けたため、ドル円、クロス円の下値をサポート。日通し安値の手前で下げ渋ると110円40銭台に買い戻される。週末引け値は110円40銭。

6月5日(月)

週明けオセアニア市場の始まり値は110円37銭。日本時間未明の薄商いの中、週末のロンドンで起きたテロ事件を嫌気して寄り付き直後にポンド円が急落、ドル円も一時110円26銭と前週末の安値を下抜け。ただ、本邦外国為替保証金(FX)取引のオープンを控えた参入が意識されるとポンド円、ドル円とも断続的に買い戻されて反発、日本時間10:45に発表された中国5月財新サービス業購買部協会指数(PMI)の改善が好感されて豪ドル円が上昇したほか、「サウジアラビア、バーレーン、エジプト、アラブ首長国連合(UAE)がカタールに対して断交を通告した」と報じられると原油先物価格が急伸してカナダドル

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

円が上昇、対資源国通貨でのクロス円の上昇につれ高して米ドル円も一時110円73銭と日通し高値を記録。ただ、8日(木)に実施される英国の総選挙やコミー前米連邦捜査局(FBI)長官の議会証言を控えてポンド円、ドル円ともに上値は伸びず、110円50銭前後に押し戻される。欧州時間帯に入り、序盤に小緩み一時110円45銭付近に弱含んだが、下値の堅さが確認されると反発、110円60銭前後に買い戻される。もともと、一段の上値探査を促すテーマや材料も見当たらず、110円50銭前後に小反落。NY時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りが先行、米10年国債利回りの上昇も追い風に、一時110円69銭限界へ上伸。ただ、コミー前米FBI長官の議会証言を8日(木)に控えた様子見ムードで上値は伸びず、米10年国債利回りが反落するとドル円も反落、一時110円37銭付近に値を落とす。NY市場の引けにかけては持ち高調整で買い戻されたが、110円50銭前後の上値が重く、110円40銭台で東京勢の参入待ち。

6月6日(火)

東京時間帯は軟調。朝方はドル買いやや優勢に始まり、一時110円45銭と日通し高値を記録する場面もあったが、安寄りした日経平均株価が下落幅を拡大すると市場のリスクセンチメントが萎縮、米系短期筋によるドル売りの噂も心理的な重石となり、正午前には一時109円73銭と前日安値を下抜け。後場寄り後に日経平均株価が下げ渋るとドル円も自律反発に転じたが、109円90銭前後の上値が重い。その後、大引け前の日本株が下落幅を拡大すると断続的な下値探査を再開、米10年国債利回りの低下も重石となり、一時109円61銭と4月25日以来の安値圏へ軟化。欧州時間帯に入り、序盤は東京午後の地合いを引き継いで続落、一時109円56銭と東京安値を下抜け。その後は一旦109円70銭台に小戻す場面もあったが、アジア時間帯から続く米10年国債利回りの低下が意識されるとドル円も下値探査を再開、一部通信社が中国関係者の話として「米国債を追加購入する用意がある」と報じると米国債利回りが急落、ドル円も一時109円28銭と4月21日以来の安値圏へ続落。米10年国債利回りが下げ渋るとドル円の下落にもブレーキがかかったが、109円40銭台では上値が重い。NY時間帯に入り、序盤は神経質な様子見売りが錯綜、109円40銭前後で保ち合い。アジア・ロンドン時間帯から売り進めてきた向きの買い戻しが入ると一旦反発、109円60銭前後に復帰する一幕もあったが、上値の重さが確認されると下値探査を再開、日本時間24:00過ぎには一時109円23銭と日通し安値を更新。断続的な下値探査が一服するとひとまず反発、109円40銭台に小戻したが、上値の重さが再確認されると再び軟化、一時109円23銭と数時間前に記録した日通し安値を小数点三桁の厘表示では僅かに下抜け。この水準でのダブル・ボトムが完成するとようやく下げ渋り、米ABCニュースが8日(木)に実施されるコミー前米連邦捜査局(FBI)長官の議会証言について「トランプ米大統領による司法妨害があったとまでは言わない可能性が高い」などと報じたことが好感されると急伸、一時109円59銭付近へ反発する場面もあったが、「前米FBI長官の証言内容は実際に行われるまで確認できない」との指摘もあってドルを買い戻す動きも限定的。NY市場の引けにかけては再び軟化、109円40銭前後で東京市場にバトンタッチ。

6月7日(水)

東京時間帯は底堅い。朝方はドル売り・円買いやや優勢に始まり、一時109円32銭付近に小緩む場面があったが、安寄りした日経平均株価がプラス圏に復帰、一時2万円の大台を回復したことが好感されると市場のリスク許容度が改善、米10年国債利回りの上昇も支えになり、午後には一時109円63銭まで買い込まれる。ただ、欧州時間帯への移行を

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

控え、早朝のロンドン勢の参入が始まると米10年国債利回りが低下、日本時間18:00過ぎには一時109円12銭と前日に記録した4月21日以来の安値を更新。ただ、この水準では本邦の機関投資家や実需筋のドル買い注文も意識されて下値が堅い。欧州中央銀行(ECB)の理事会を翌日に控え「草案で2019年までのインフレ見通しを下方修正」との報道が伝わると対ユーロでドル買いが加速、ドル円も一時109円51銭付近に切り返す。その後は材料難で方向感を見失い、109円30銭台～50銭前後までの狭いレンジで一進一退。NY時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りが先行、米10年国債利回りの上昇も追い風に、一時109円67銭界限へ上伸。その後、原油在庫の増加を嫌気して原油先物価格が急落するとカナダドル円の下落に巻き込まれて米ドル円も失速、一時109円20銭台に差し込む一幕もあったが、この日の米国市場ではNYダウが3営業日ぶりに反発するなど米国株価が堅調に推移、米10年国債利回りも引けに向かって上昇幅拡大に転じたため、ドル円の下値探査は限定的。翌日の上院情報委員会で開催されるコミー前米連邦捜査局(FBI)長官の証言原稿が予め公開され、概ね事前のマスコミ報道通りの内容であり、「大統領による司法妨害の有無については判断を避ける」との方針が伝えられると市場の警戒感が緩和してドル買い・円売りが加速、一時109円88銭と日通し高値を記録。引けにかけては持ち高調整で伸び悩み、109円80銭前後で東京勢の参入待ち。

6月8日(木)

東京時間帯は上値が重い。朝方は上値探査が先行、仲値公示に向かってドル買いが散見されたことも材料視され、一時110円01銭界限までジリ高。ただ、節目の110円00銭を抜けると上値が重く、午後にかけては109円80銭台～90銭台までの狭いレンジでしばらく膠着。その後、日本時間14:00前に一部通信社が「日銀、出口論は時期尚早から説明重視に」との見出し記事を配信すると急落、一時109円38銭と日通し安値圏に差し込む場面もあったが、出所の怪しさへの疑義が広がると反発、109円60銭前後に値を戻す。欧州時間帯に入り、序盤は東京午後に売り進めた向きのショートカバーが継続、米10年国債利回りの上昇幅拡大も追い風になって節目の110円00銭を突破するとストップロスを誘発、一時110円24銭と東京高値を上抜け。NY時間帯に入り、序盤はドル売り・円買いが先行、一時109円94銭付近に軟化する場面もあったが、前日に原稿が公開されたコミー前米連邦捜査局(FBI)長官の証言を前に思惑主導のドル買いが入ると上値探査を再開、一時110円38銭と日通し高値を記録。ただ、この日の外国為替市場では欧州中央銀行(ECB)理事会の結果発表とドラギECB総裁会見の内容を巡る市場解釈が錯綜、投票が始まった英国総選挙の結果も睨んで欧州通貨絡みの売買が中心となったため、ドル円絡みの取引は相対的には控えめ。コミー前米FBI長官の証言内容が「新味に乏しい内容」と解釈されると当面の材料出尽くし感が広がってドル円も伸び悩み、110円00銭前後～20銭前後のレンジに押し戻されて一進一退。その後、黒田日銀総裁が英オックスフォード大学の講演会で「すでにデフレではなくなっている」と述べたことが報じられると急落、一時109円80銭台に差し込む一幕もあったが、このレベルでは押し目買い注文も入って反発、110円00銭前後で翌日の東京市場にバトンタッチ。

6月9日(金)

東京時間帯は強含み。日本時間6:00過ぎ頃に英国総選挙の出口調査の第一報が伝わり、「与党保守党の獲得議席数は過半数に達しない見込み」と報じられるとポンド円が急落、ドル円も釣り込まれて一時109円77銭と日通し安値を記録。ただ、同じニュースに反応してストレートドル市場ではドル買いが加速したこともあり、ドル円の下値探査は限定

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

的。日本時間7:20過ぎには一時110円14銭付近に値を戻す。その後、日本株の寄り付き前に英総選挙の結果を睨んで複雑な売買が錯綜すると再び軟化、一時109円80銭台に押し戻される場面もあったが、高寄りした日経平均株価が上昇幅を拡大すると市場のリスクセンチメントが改善、正午過ぎには一時110円36銭と朝方の高値を上抜け。後場の日本株が上昇幅を圧縮すると一転反落、一時110円09銭付近に軟化する一幕もあったが、大引けに向かって日経平均株価が切り返し、2万円の大台に復帰して引けると市場のリスク許容度が回復、対ポンドでのドル高進行も追い風となり、一時110円48銭界限まで続伸。ただ、この水準では上値が重く、欧州時間帯に入って特段の手掛かりとなる売買材料が見当たらなくなると方向感を喪失、110円30銭前後に小緩んだ後、110円40銭前後に買い戻されてしばらく膠着。NY時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りが先行、コマー前米連邦捜査局(FBI)長官の議会証言や英国総選挙などの注目イベントを消化したことへの安堵感から安全資産である米国債が売られて利回りが上昇、米日金利差の拡大観測を追い風にドル円も一時110円81銭と日通し高値を記録。米国債売りが一巡して利回りの上昇幅が圧縮されるとドル円も反落、アマゾンやフェイスブックなどの大型ハイテク株にまとまった規模の利益確定売り売りが持ち込まれてナスダック総合株価指数が急落したことも心理的な重石となり、一時110円13銭付近へ軟化。ただ、この日の米国株式市場ではハイテク株が売られる一方で金融株やエネルギー株は堅調に推移、NYダウが約1週間ぶりに過去最高値を更新して引けたため、ドルの下値は限定的。NY市場の終盤にむけてはドル円も切り返し、110円30銭前後に値を戻す。週末の引け値は110円32銭。

6月12日(月)

週明けオセアニア市場の始値は110円34銭。オーストラリアが祝日とあって日本時間の未明は超薄商い。寄り付き後に一時110円23銭付近に差し込む場面もあったが、早朝の東京勢の参入が始まるとジワジワ値を上げ、日本時間7:30過ぎには一時110円44銭と日通し高値を記録。ただ、この水準では上値が重く、前週末の米国市場でナスダック総合株価指数が大幅に下落したことを嫌気してハイテク株を中心に日経平均株価が下落すると市場のリスクセンチメントが悪化、ドル円も一時110円16銭界限へ軟化。前場引けから後場にかけて日本株が下げ渋るとドル円も下げ止まったが、110円30銭前後の上値の重さを確認すると小反落、110円20銭前後で一進一退。欧州時間帯に入り、序盤にややまとまった規模のドル買い・円売りが持ち込まれると強含み、110円30銭前後に復帰する場面があったが、時間外取引の米10年国債利回りが低下するとドル円も下落、一時109円88銭と東京安値を下抜け。米10年国債利回りが反発に転じるとドル円も買い戻されたが、110円00銭台に乗せると戻り売り興味の強さが確認されて下値探査を再開、一時109円81銭付近へ続落。NY時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りが先行、米10年国債利回りの続伸を追い風に、一時110円04銭界限まで上昇。ただ、節目の110円00銭を抜けると上値が重く、前週末に続いて米ハイテク値嵩株が下落するとナスダック総合株価指数が軟化、日本時間24:30に実施された米3年国債入札が好調と受け止められて利回りが低下したことも重石となり、一時109円63銭と日通し安値を記録。もともと、日本時間26:00に実施された米10年国債入札を受けて利回りが上昇に転じるとドル円も反発、カナダ中銀(BOC)のウィルキンソン上級副総裁が「緩和縮小の可能性について査定する」と発言してカナダ円が大幅に上昇したことも追い風となり、米ドル円も一時109円97銭付近に値を戻す。109円95銭前後で小康状態を保ちつつ、東京勢の参入待ち。

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

6月13日(火)

東京時間帯は底堅い。週末を挟んで米ナスダック総合株価指数が連日の大幅安となったことへの警戒感から朝方はドル売り・円買いが先行、一時109円83銭と日通し安値を記録したが、午前中の仲値公示に向かってドル買いが観測されると反発、安寄りした日経平均株価の下げ幅圧縮も好感され、一時110円11銭付近に上伸。ただ、翌日に米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果発表を控えた様子見ムードが強くて上値も伸びず、午後にかけては109円90銭台～110円00銭台に押し戻されて一進一退。欧州時間帯に入り、ロンドン市場の8:00前後にややまとまった規模のドル買いが持ち込まれると急伸、米10年国債利回りの上昇も追い風に、一時110円27銭と日通し高値を記録。ただ、米FOMCの結果発表を意識した様子見ムードで上値は重く、ロンパチ前後の需給消化が終わると反落、110円00銭前後に押し戻される。NY時間帯に入り、米5月生産者価格コア指数の上昇率が市場予想を上回るとドル買い・円売りが加速、一時110円22銭界限へ上伸する場面もあったが、米FOMCの結果発表を翌日に控えて上値は伸びず、米国債利回りが反落するとドル円も失速、109円90銭台に押し戻される。ただ、この日の米国市場では週末を挟んで調整が続いていたIT関連株が持ち直して投資家心理が改善、ナスダック総合株価指数が3営業日ぶりに反発したほか、NYダウとS&P500指数は過去最高値を更新したため、ドルの下値は限定的。NY市場の終盤にかけては材料難で方向感を見失い、110円10銭前後に小戻した後、110円00銭前後に小反落して一進一退。110円00銭台で東京勢の参入待ち。なお、この日の北米市場では、日本時間21:30過ぎ頃にカナダ中銀(BOC)のボロズ総裁が「政策金利は異常に低い」などと発言、前日のウィルキンソン上級副総裁の発言も蒸し返されてカナダドルが急騰したが、ストレートドル市場とクロス円市場でほぼ同時にカナダドルが買われたため、米ドル円市場への影響は限られた。

6月14日(水)

東京時間帯は狭い値幅で小動き。朝方はドル買い・円売りやや優勢に始まり、一時110円13銭付近に強含む場面もあったが、前日のNY株高を好感して高寄りした日経平均株価が上昇幅を圧縮してマイナス圏に到達すると市場のリスクセンチメントが悪化、一時109円95銭界限へ反落。その後も日本株睨みの展開が続く、前場引けから後場にかけての日経平均株価がプラス圏に復帰するとドル円も小反発、110円10銭前後に持ち直したが、同株価が大引け前に上昇幅を圧縮、マイナス圏に沈み込んで引けると109円99銭付近に押し戻される。心理的節目の110円00銭前後が下値抵抗として意識されると自律反発に転じたが、110円10銭前後の上値が重い。結局、この日の東京市場では、為替、株価ともに米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果発表を控えた様子見気運が非常に強く、ドル円の値幅は18銭に留まった。欧州時間帯に入り、夜間取引の日経平均先物が上昇したほか、国際通貨基金(IMF)が2017年の中国の実質国内総生産(GDP)見通しを6.6%から6.7%に上方修正したことが伝えられると豪ドル円を中心にクロス円が上昇、米ドル円もつられて一時110円34銭と日通し高値を記録。ただ、この水準では米経済指標の発表待ちムードが漂って伸び悩み、110円30銭前後でしばらく膠着。NY時間帯に入り、米5月小売売上高や米5月消費者物価指数の伸びがいずれも市場予想を下回ると急落、一時108円93銭と4月21日以来の安値を記録。その後は米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果発表待ちで下げ渋り、109円00銭台～20銭までの狭いレンジで保ち合ったが、日本時間27:00に声明文が公表され、政策金利の誘導目標をこれまでの0.75～1.00%から1.00～1.25%に引き上げるとの決定が伝えられると「大方の予想通りの利上げで材料出尽くし」との市場解釈が広がってドル売り・円買いが再加速、一時108円83銭と4月20日以来の安値

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

圏に続落。ただ、保有債券の償還の再投資について、「当初は米国債で月額最大60億ドル、住宅ローン担保債券(MBS)で月額最大40億ドル縮小し、その後は3ヶ月毎に上限を同額引き上げて1年後からは米国債で月額300億ドル、MBSで200億ドル削減する」との基本計画の内容消化が始まると米金融政策の正常化観測が広がって一転反発、一時109円80銭台まで値を戻す。ただ、米連邦準備制度(FED)によるバランスシートの縮小計画が当初は非常に少額から始まることに加え、「本当に実施されるかどうかは今後の経済情勢次第」との見方が広がると米国債利回りが反落してドル円も軟化、同時に公表された米政策金利見通しで2017年末及び18年末が据え置かれたものの、2019年の予測中央値が3.0000%から2.9375%に小幅下方修正されていたことも一部で材料視され、109円60銭前後に押し戻されて東京市場にバトンタッチ。

6月15日(木)

東京時間帯は底堅い。朝方はドル買い・円売りが先行、一時109円69銭付近に強含んだ後、「モラー米特別検察官がトランプ米大統領を司法妨害の可能性で捜査」との報道が伝わると反落、一時109円27銭と日通し安値を記録。ただ、この水準では下値が堅く、ゴトウ日の仲値公示に向かってドル買いが観測されると反騰、一時109円80銭界限まで上伸。仲値を過ぎると反落したが、109円50銭付近では底堅く、109円70銭前後に値を戻す。欧州時間帯に入り、序盤はドル売り・円買いやや優勢に始まり、一時109円48銭付近に小緩む場面もあったが、109円50銭前後の下値の堅さが確認されると断続的な上値探査を開始、対ユーロでのドル高進行も追い風となり、一時109円81銭と東京高値を僅かに上抜け。その後は一旦109円60銭台に押し戻されたが、英国中銀政策委員会(MPC)が金融政策の据え置きと併せて発表した議事要旨で3人の委員が0.25%の利上げを主張していたことが判明するとポンド円が急伸、ドル円もつれ高して節目の110円00銭を突破した後はストップロスを誘発、一時110円24銭付近へ続伸。NY時間帯に入り、米失業保険新規請求者数、米6月NY連銀指数、米6月フィラデルフィア連銀指数などの経済指標が軒並み市場予想よりも強い結果になると断続的な上値探査を開始、前日高値の110円34銭を抜けた後も上昇し続け、一時110円98銭と日通し高値を記録。整数節目の111円00銭が目先の上値抵抗ラインとして意識されると伸び悩んだが、110円80銭台では下値が堅い。110円90銭台で東京勢の参入待ち。

6月16日(金)

東京時間帯は堅調。前日のNY市場で大幅なドル高・円安が進んだ反動で朝方は上値が重く、一時110円84銭付近に小緩む場面もあったが、日経平均株価の高寄りが好感されると市場のリスクセンチメントが緩和、一時111円15銭と約2週間ぶりの111円台に復帰。その後は一旦伸び悩んだが、111円00銭付近の下値が堅く、日経平均株価が上昇幅を拡大、後場寄り後に一時2万円の大台を回復するとドル買い・円売りが活発化、午後には一時111円27銭付近へ続伸。この間、日銀金融政策決定会合で金融政策の据え置きが発表されたが、市場予想通りの結果だったため、マーケット・インパクトは限られた。その後、大引けにかけて日本株が伸び悩むとドル円も反落、黒田日銀総裁の定例会見を控えた持ち高調整も重なり、断続的に111円00銭台に押し戻されたが、15:30過ぎから始まった日銀総裁会見で「現時点で金融緩和の出口での損益試算を公表すると混乱を招く」、「現時点で金融緩和の出口の手法や順序を示すのは難しい」などの見解が示されると急伸、一時111円38銭界限へ続騰。欧州時間帯に入り、序盤は利益確定売りが先行、111円10銭台に押し戻されたが、本格参入してきたロンドン勢が黒田日銀総裁の会見内容を蒸

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

し返すとクロス円が上昇、14日の連邦公開市場委員会(FOMC)でバランスシートの縮小計画を示した米国と出口を語らぬ日本との間の金融政策の違いも意識されてドル円も断続的に上昇、一時111円42銭と6月2日以来の高値圏に続伸。ただ、同日高値の111円48銭が目先の上値目処として意識されると反落、NY時間帯に入って発表された米5月住宅着工件数、建設許可件数や米6月ミシガン大学消費者態度指数(速報値)などの経済指標が軒並み市場予想を下回る冴えない結果になったことが嫌気されるとドル売り・円買いが加速、日本時間24:00頃には一時110円65銭と日通し安値を記録。ただ、この日の米国債券・株式市場では弱めの米経済指標に反応して米10年国債利回りが低下した一方でNYダウは反発して過去最高値を更新するなど株価は堅調に推移したため、ドルの下値は限定的。NY市場の終盤に向けては週末独特の持ち高調整で小幅に反発、110円80銭前後～90銭前後までの狭いレンジで膠着。110円88銭で1週間の取引を終了。

6月19日(月)

週明けオセアニア市場の寄り付きは110円83銭。日本時間未明から早朝の薄商いの中で、序盤は神経質な売買が錯綜、一時110円75銭と日通し安値を記録する場面もあったが、前週末安値の110円65銭の手前が堅く、プラス圏で寄り付いた日経平均株価が上昇幅を拡大すると市場のリスク許容度が緩和、日本の5月の通関貿易収支が原数値で予想外の赤字になったほか、仲値公示に向けたドル買いの噂も追い風になり、一時111円14銭界限へ値を上げる。仲値を過ぎると伸び悩んだが、ほぼ終日2万円の大台をキープする日経平均株価を眺めて下値は堅く、110円90銭台～111円10銭前後までの狭いレンジで一進一退。この間、「仏国民議会選挙の決選投票でマクロン大統領率いる共和国前進系が勝利、総議席数の約6割を獲得した」と報じられたことも、市場のリスクセンチメントの改善に寄与したとの指摘もあった。欧州時間帯に入り、ロンドン市場の朝方にまとまった規模のドル買い・円売りが持ち込まれると急伸、一時111円21銭と東京高値を上抜け。ロンパチ絡みの需給トークが一巡すると反落したが、110円95銭前後の下値が堅い。NY時間帯に入り、ダドリー米NY連銀総裁が「インフレ率は連邦準備制度(FED)が望む水準をやや下回っている」と述べたことが伝えられると軟化、一時110円91銭付近に差し込む場面があったが、その後続けて「景気拡大はなお長期間続く」と確信、「米経済は完全雇用非常に近い」、「我々は金融環境をそれほど引き締めていない」などと述べたことが報じられると111円30銭台に急伸。その後も断続的な上値探査が止まらず、イールド・カーブ全般での米国債利回りの上昇や、週末跨ぎの連日で過去最高値を更新するNYダウの堅調推移も追い風になり、NY市場の引け前には一時111円60銭と月初来高値を記録。その後は米国市場終盤の持ち高調整に移行、111円50銭台で東京勢の参入待ち。

6月20日(火)

東京時間帯は伸び悩み。前日の米国市場でドル高・円安が進んだ地合いを引き継ぎ、朝方は上値探査が先行、ゴトウ日の仲値公示に絡んだドル買いの思惑も追い風になり、一時111円78銭と前日高値を上抜け。仲値前後の需給トークが一巡すると上げ渋ったが、終日2万円超の大台をキープして3日続伸する日経平均株価を眺めて市場のリスク許容度緩和期待が広がる中、111円60銭台では下値が堅い。大引け前に日経平均株価が利益確定売りで上昇幅を縮めるとドル円も下押したが、111円50銭台では下げ渋り。欧州時間帯に入り、ロンドン市場の朝8:00前後の時間帯にややまとまった規模のドル買い・円売りが持ち込まれると急伸、米10年国債利回りの上昇も追い風になり、一時111円79銭と日通し高値を記録。ただ、東京高値を抜けると上値が伸びず、カーニー英国中銀(BOE)

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

総裁が「インフレ圧力は抑制されており、利上げの時期ではない」などと発言したことが伝えられるとポンド円が急落、原油価格の下落を嫌気したカナダドル円の下落も重石となり、米ドル円も一時 111 円 47 銭付近まで軟化。ただ、同じ理由を背景にストレートドル市場ではポンドやカナダドルに対して米ドル高が進んだため、米ドル円相場への影響は限定的。111 円 50 銭を割り込む水準には押し目買い注文も散見されたほか、ムニューシン米財務長官が「超長期債の発行を真剣に検討している」などと述べるも米国債利回りが上昇、ドル円も一時 111 円 66 銭付近へ買い戻される。NY 時間帯に入り、ロンドン時間から大幅に下落していた原油先物価格が下げ幅を拡大するとカナダドル円が一段安になり、米ドル円も巻き込まれて一時 111 円 31 銭と日通し安値を記録。ただ、同じテーマに反応してドルカナダを中心としたストレートドル市場ではドル買い圧力が強まったほか、日本時間 24:00 のロンドン・フィキシングに向けたドル買いの噂が意識されると反発、111 円 73 銭付近へ切り返す。もっとも、この日の米国市場では銅価格の下落が嫌気されて豪ドル円が軟化、原油価格下落とのダブルパンチで米国債利回りが下げ幅を拡大したほか、連日史上最高値を更新していた NY ダウが 3 営業日ぶりに反落したため、米ドル円の上値探査も抑制される。ロンドン・フィキシングの時刻を通過すると米ドル円も反落、一時 111 円 38 銭限界へ押し戻される。その後は持ち高調整で小反発、111 円 40 銭台で翌日の東京市場にバトンタッチ。

6 月 21 日(水)

東京時間帯は軟調。前日の米国市場で NY ダウが 3 営業日ぶりに反落した余韻を引き継ぎ、朝方からドル売り・円買いが先行、4 営業日ぶりに下落する日経平均株価の冴えない動きも心理的な重石となり、正午過ぎには一時 111 円 19 銭限界まで値を下げる。111 円 00 銭割れ水準に控える本邦実需のドル買い注文が意識されると下げ渋ったが、前日未比マイナス圏で推移する日本株の冴えない展開を眺めて上値は伸びず、111 円 20 銭台～30 銭台までの狭いレンジで一進一退。欧州時間帯に入り、早期利上げ観測を否定した前日のカーニー英国中銀(BOE)総裁の発言が蒸し返されたほか、エリザベス女王による施政方針代読の当日になってもメイ首相の与党保守党とアイルランドの民主統一連合の閣外協力交渉がまとまっていないことが嫌気されるとポンド円主導でクロス円が下落、ドル円も軽く巻き込まれて一時 111 円 07 銭と日通し安値を記録。ただ、111 円 00 銭より下に控える本邦実需筋のドル買い注文が意識されると下値が堅く、ホールデン BOE 金融政策委員が「年後半に金融刺激の一部解除を支持する」などと発言したことが伝えられるとポンド円が急速に切り返してドル円も反発、断続的に上値を切り上げ、一時 111 円 60 銭と東京高値を上抜け。NY 時間帯に入り、序盤は利益確定売りに押されて伸び悩んだが、111 円 50 銭手前の底堅さが確認されると上値探査を再開、米 5 月中古住宅販売件数が市場予想を上回ったことも好感され、一時 111 円 74 銭限界へ続伸。この間、「米エネルギー省の週間統計で原油やガソリンの在庫が減少、原油価格先物と同時にカナダドル円が一時急騰したことも米ドル円の急伸に影響した」との指摘もあった。ただ、前日高値の 111 円 79 銭が目先の上値抵抗として意識されると反落、米週間在庫統計の結果を好感して急騰していた原油価格が一転して急落に転じたことも重石となり、米ドル円も一時 111 円 20 銭台に押し戻される。原油価格が下げ渋るとクロス円、ドル円ともに切り返したが、111 円 40 銭台では上値が重い。111 円 40 銭前後で小康状態を保ちつつ、東京勢の参入待ち。

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

6月22日(木)

東京時間帯は軟調地合い。朝方はドル買いやや優勢に始まり、一時111円43銭付近に上昇する場面もあったが、高寄りした日経平均株価が前場引けに向かってマイナス圏に沈み込むと市場のリスクセンチメントが悪化、時間外取引の米10年国債利回りが低下したことも重石となり、正午前には一時110円95銭と日通し安値を記録。節目の111円00銭を割り込むと押し目買いも入って反発に転じたが、111円10銭台では上値が重い。その後も日本株睨みの展開が続き、後場寄り直後にプラス圏に浮上した日経平均株価が引けに向かって反落、結局続落して引けると市場のリスク許容度が再び萎縮、一時110円98銭付近へ押し戻される。もともと、111円00銭より下に控えるドル買い注文が意識されると下げ渋り、111円10銭台に小反発。欧州時間帯に入り、序盤は下値探査が先行、一時110円96銭付近に下落したが、111円00銭割れ水準に控えるドル買い注文が再確認されると下値を切り上げ、111円00銭台～10銭台でしばらく様子見。その後は原油価格と米国債利回り両睨みの展開になり、前日大幅に下落した原油先物が上昇し始めるとカナダドル円が上伸、時間外取引の米10年国債利回りの上昇も追い風になり、一時111円37銭付近へ値を上げる。原油価格が伸び悩み、米国債利回りが低下に転じるとカナダドル円、米ドル円ともに反落、111円20銭台に押し戻される。NY時間帯に入り、序盤に発表された米失業保険新規請求者数が市場予想並みの強さを示すと上伸、ほぼ同時に公表されたカナダの4月小売売上高が市場予想を上回ってカナダドル円が上昇したことも意識され、米ドル円も一時111円37銭付近へ強含む。ただ、この水準では上値が重く、原油価格が伸び悩むと米国債利回りが低下、111円00銭台に押し返される。その後も米国債利回りと原油価格、カナダドル円睨みの展開が続き、原油先物価格の上昇を眺めて米10年国債利回りが上昇すると米ドル買い・カナダドル買い・円売りが活発化、米ドル円も一時111円45銭と日通し高値を記録。NY市場の終盤に向かって原油価格と米10年国債利回りが反落すると米ドル円も伸び悩んだが、この日の米国市場ではカナダドル円が大幅に上昇した後も高値圏で推移、米ドル円も111円20銭台では底堅い。NY市場の最終盤は持ち高調整で小反発、111円30銭前後で東京市場にバトンタッチ。

6月23日(金)

東京時間帯は小動き。特段の注目材料見当たらない中、高寄りした日経平均株価が寄り付き直後に小幅マイナス圏に沈み込むと市場のリスクセンチメントが悪化、一時111円23銭付近に弱含む場面もあったが、日本株がプラス圏に持ち直すとドル円も反発、週末の仲値公示に絡んだドル買いの思惑も意識され、10:00過ぎには一時111円43銭と日通し高値を記録。ただ、一段の上値探査を促す材料は見当たらず、午前中の需給トークが一巡するとすぐに失速、午後にかけてはジリジリ値を下げ、日本株引け後には一時111円22銭と午前中の安値を僅かに下抜け。もともと、一段の下値探査を促すテーマも見当たらず、下値の堅さを確認するとすぐに反発、111円30銭前後に買い戻される。結局、この日の東京市場におけるドル円相場の値幅はわずか21銭に留まった。欧州時間帯に入り、序盤は断続的なドル売り・円買いが先行、対オセアニア通貨や対欧州通貨でのドル売り進行の影響を受け、一時111円15銭と日通し安値を記録。ただ、ほぼ同じ時間帯にクロス円市場では対オセアニア通貨や対欧州通貨での円売りも進んでいたため、ドル円相場への影響は限られ、下値の堅さを再確認すると111円30銭前後に買い戻される。NY時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りやや優勢に始まったが、111円34銭付近で息切れ。その後はドル売り・円買いやや優勢に傾いたが、111円16銭境界の下値が堅い。その後も特段の手掛かり材料見当たらない中、ほぼ終日にわたって狭い値幅でのレンジ取引に終

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

始、111円20銭～30銭前後までの極小レンジで一進一退。この間、ブラード米セントルイス連銀総裁が「インフレ率とインフレ期待に下向きのサプライズ」、「バランスシート縮小は利上げをしない会合で行う可能性がある」などと発言した一方、マスター米クリーブランド連銀総裁は「米国経済を減速されるために利上げをする訳ではない」、「最近のインフレデータによる見通しの変化はない」、「年内のバランスシート縮小を支持する」などと述べたことが順次伝えられたが、いずれもドル円相場へのインパクトは限られた。週末の終値は1ドル＝111円28銭。結局、この日に限れば、ドル円相場の値幅はわずか28銭に留まり、週明けから週末までの1週間の値幅も1円04銭に収まるなど、総じて膠着感の強い展開になった。

6月26日(月)

週明けのオセアニア市場の始値は111円15銭と前週末終値よりも下方方向に軽く窓開けオープン。日本時間未明の薄商いの中で一時111円13銭と日通し安値を記録する場面もあったが、週明けの東京勢の参入が始まると前週末終値付近に復帰、111円30銭前後に買い戻される。本邦外国為替保証金(FX)取引オープン前後の神経質な値動きが一巡すると再び反落、一時111円20銭付近に押し戻されたが、週明けの仲値公示に向けたドル買いの思惑が強まると上値探査を再開、原油価格の上昇を好感した豪ドル円やカナダドル円などクロス円の上昇も追い風となり、一時111円35銭界限へ値を上げる。午前中の需給トークが一巡すると手掛かり材料難で値動きが細くなり、午後にかけては111円28銭～34銭までの狭い値幅でしばらく膠着したが、週明け早朝のロンドン勢の参入が始まると断続的な上値探査を再開、111円40銭付近に値を上げる。欧州時間帯に入り、ロンドン朝8:00前後にまとまった規模のドル買い・円売りが持ち込まれると急伸、時間外取引の米10年国債利回りやNYダウ先物の上昇も追い風となり、一時111円71銭と東京高値を上抜け。その後、米10年国債利回りが低下すると111円60銭前後に押し戻されたが、NYダウ先物の高止まりを眺めて上値探査を再開、一時111円73銭界限へ続伸。その後は米経済指標の発表待ちモードに移行、111円60銭台～70銭前後の狭いレンジでひとまず様子見。NY時間帯に入り、序盤に発表された米5月耐久財受注が市場予想を下回るとドル全面安が加速、ドル円も一時111円36銭付近へ急落。米経済指標発表直後の反応が一巡すると神経質な売買が錯綜、111円50銭台に小戻した後、111円40銭前後に反落するなど、方向感の定まらない展開に。ただ、ロンドン時間帯に持ち込まれた背景のよく分からないドル買いへの警戒感から下値は堅く、日本時間24:00過ぎから始まったリスボンでの学生向けタウンホール・ミーティングで欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁が「ユーロ圏の若年失業率は非常に高い」、「政策金利は成長回復のために低い必要がある」などと発言したことが伝えられるとユーロに対してドルを買い戻す動きが活発化、ドル円市場でもドル買いが優勢になって111円70銭前後に値を戻す。その後はいったん111円60銭台に伸び悩んだが、日本時間27:00過ぎに背景のよく分からないドル買いが再び持ち込まれると急伸、28:00過ぎには一時111円95銭と5月25日以来の高値圏へ続伸。整数節目の112円00銭が意識されると伸び悩んだが、111円85銭付近の下値が堅く、111円90銭前後で東京市場にバトンタッチ。

6月27日(火)

東京時間帯は続伸後に反落。約1ヶ月ぶりの水準までドル高・円安が進んだ前日の流れを引き継ぎ、午前中は上値探査が先行、月末接近を意識した本邦実需筋のドル買いも追い風となり、一時112円08銭と5月24日以来の高値圏へ続伸。ただ、整数節目の112

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

円00銭を超えると上値が重く、午後にかけては利益確定売りに押されて反落、111円60銭台に押し戻される。欧州時間帯に入り、序盤は東京午後の地合いを引き継いだ下値探査が先行、一時111円46銭と日通し安値を記録。ただ、日本時間17:00過ぎに始まったドラギ欧州中銀(ECB)総裁の講演で「緩和策の調整について慎重になるべき」としながらも、「ユーロ圏の景気回復が広がっている兆候が見受けられる」、「インフレを抑制している要因は一時的」、「デフレ圧力はリフレに変わった」などと発言したことが伝えられるとユーロ円が急騰、時間外の米国債利回りが全ての年限で上昇したことも追い風となり、111円90銭台に反発。NY時間帯に入り、心理的節目の112円00銭を目前に一旦は上値が重くなり、111円80銭台に小緩む場面もあったが、日本時間23:00に発表された米6月コンファレンスボード消費者信頼感指数や米6月リッチモンド連銀製造業指数が市場予想を上回ったことが伝えられると112円00銭を突破、米国債利回りの大幅上昇も支えになって断続的な上値探査を再開、一時112円47銭と5月17日以来の高値圏に上伸。その後、112円台半ばに控える売り注文の厚さが意識されると反落、日本時間26:00過ぎから始まったイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長の対談で「段階的な利上げは適切」としながらも「保有資産の縮小は慎重に進めるべき」などと発言したことが報じられると「6月14日の米連邦公開市場委員会(FOMC)後の会見ほどはタカ派でない」との市場解釈が広がって反落、一部米系メディアが「米議会上院はヘルスケア改革法案の採決を7月4日以降に延期する可能性」と報じたことも重石となり、一時112円07銭付近に押し戻される。ただ、この日の米国債市場では節目の2.12%台から一時2.21%台まで大幅に上昇した米10年国債利回りが2.20%前後で高止まりしたため、ドル円の下値をサポート。112円00銭の手前の堅さが確認されると再び反発、112円30銭台に小戻しながら東京勢の参入待ち。

6月28日(水)

東京時間帯は底堅い。前日のNY市場でクロス円も巻き込んだ外貨全面高・円全面安が進んだ反動から午前中は利益確定売りが先行、一時112円04銭付近へ値を下げる。ただ、整数節目の112円00銭の手前が堅く、押し目買い意欲の強さが確認されると反発、日本株引け後にかけて112円30銭前後に買い戻される。欧州時間帯に入り、序盤は東京午後の流れを引き継いでドル買い・円売りが先行、一時112円42銭界限まで続伸したが、前日高値の112円47銭が目先の上値抵抗として意識されると失速、節目の112円00銭を割り込むとストップロスを誘発して下げが加速、一時111円83銭と日通し安値を記録。もともと、112円割れ水準では月末接近を意識した本邦実需勢の買いも厚く、下値の堅さが確認されると112円20銭前後に反発した後、112円10銭前後に押し戻されて一進一退。NY時間帯に入り、一部通信社が前日27日のドラギ欧州中銀(ECB)総裁の発言に対する市場の反応について、ECB関係筋の話として「誤認している」との見解が報じられるとユーロ円が急落、ドル円も巻き込まれて一時111円93銭付近まで下落したが、112円00銭を割り込むとすぐに買い戻され、112円00銭台～10銭台でしばらく膠着。その後、英国中銀(BOE)のカーニー総裁が「刺激策の一部解除が必要になる可能性」に言及したことが伝えられるとポンド円が急伸、ドル円も一時112円31銭界限へ吹き上がる一幕があったが、同じ材料に反応して対ポンドでのドル売りも急加速、対ユーロでも一転ドル売りが加速したため、ドル円市場では非常に複雑な売買が錯綜、112円00銭台～20銭台のレンジで方向感こそ出ないものの、やや荒っぽい値動きに。NY市場の引けにかけては米株式市場睨みの展開になり、主要3指数が前日の下げから反発、揃って大幅に上昇するのを眺めてクロス円が上昇、ドル円も下値を切り上げて112円35銭前後に強含み。米国の主要株価指数が引け

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

にかけて伸び悩むとクロス円、ドル円ともに上げ渋ったが、112円20銭前後では下値が堅い。112円30銭前後に買い戻されて東京市場にバトンタッチ。

6月29日(木)

東京時間帯は小動き。朝方は上値試しが先行、一時112円43銭付近に上昇したが、27日(火)高値の112円47銭が上値抵抗として意識されると売りに押され、一時112円16銭界限まで押し戻される。ただ、月末・期末の接近を意識した本邦実需勢のドル買いへの警戒感から下値も堅く、正午過ぎには112円30銭付近へ小反発。後場の日本株が上昇幅を圧縮するとドル円も反落したが、午前中安値の112円16銭でダブル・ボトムを形成すると再び反発、112円30銭台に値を戻す。欧州時間帯に入り、ロンドン8:00の時刻を目前にドル円、クロス円とも複雑な売買が錯綜すると値動きがやや粗くなり、一時112円14銭付近に下落。ただ、ロンドン勢の参入が本格化するとクロス円、ドル円ともに買いが優勢となって上昇が加速、一時112円64銭と27日に記録した5月17日以来の高値を更新。クロス円の上昇が一服するとドル円も伸び悩んだが、112円40銭付近の下値が堅い。日本時間20:00過ぎから米10年国債利回りが急伸するとドル円も上値探査を再開、一時112円75銭と序盤の高値を更新。その後は米経済指標の結果待ちモードに移行、112円70銭を挟んで一進一退。NY時間帯に入り、朝方に発表された米1-3月期国内総生産(GDP)確報が前期比年率+1.4%と市場予想の同+1.2%を上回るとドル買い・円売りが加速、一時112円93銭と5月17日以来の高値を更新。ただ、整数節目の113円00銭が目先の上値抵抗として意識されると伸び悩み、欧米株価の下落や米10年国債利回りの上昇幅圧縮が重石となって週初来の大幅上昇に対する利益確定売りが促されると一転反落、一時111円82銭と日通し安値を記録。もともと、整数節目の112円00銭を割り込むと押し目買いも散見されて小反発、112円10銭台で東京勢の参入待ち。

6月30日(金)

東京時間帯は下げ渋り。早朝に一時112円18銭界限へ強含む場面もあったが、約1ヶ月半ぶりの高値圏から大幅に反落した前日のNY市場終盤の地合いが蒸し返されると断続的な下値探査を再開、安寄りした日経平均株価の下げ幅拡大が嫌気されるとクロス円が続落したほか、「米系短期筋がドル円を売っている」との噂も重石になり、午前中に一時111円73銭と日通し安値を記録。ただ、この水準では本邦外国為替保証金(FX)取引などの押し目買い興味も観測されて反発、時間外取引の米10年国債利回りが緩やかに上昇するとドル買い・円売りが活発化、112円10銭付近に値を戻す。欧州時間帯に入り、ロンドン市場の朝方にややまとまった規模の売りが持ち込まれると反落、一時111円85銭付近に小緩んだが、ロンパチを過ぎるとすぐに反発、一時112円15銭界限へ続伸。その後は手掛かり材料難で方向感を見失い、111円80銭台に押し戻された後、112円00銭前後に小反発して一進一退。NY時間帯に入り、序盤に発表された米5月個人消費デフレーター伸びが市場予想の前年比+1.5%を下回る同+1.4%だったことが伝わり一瞬下落、一時111円85銭付近に差し込んだが、同時に公表された個人消費コアデフレーターは市場予想通りの前年比+1.4%だったほか、個人所得の伸びは市場予想を上回っていたことなどが意識されると反発、米10年国債利回りの上昇も追い風になり、一時112円24銭と東京高値を上抜け。その後は一旦112円00銭台に反落したが、続いて発表された米6月シカゴ地区購買部協会指数(PMI)や米6月ミシガン大学消費者態度指数確報値が市場予想を上回ると断続的な上値探査を再開、NY市場の終盤に向かって米10年国

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

債利回りが上昇したことも横目に睨み、一時112円60銭と日通し高値を記録。引けにかけては週末の着地を意識した持ち高調整で小反落、112円39銭で1週間の取引を終了。

(7月1日 11:30)

Appendix A

アナリストによる証明

本レポート表紙に記載されたアナリストは、本レポートで述べられている内容（複数のアナリストが関与している場合は、それぞれのアナリストが本レポートにおいて分析している銘柄にかかる内容）が、分析対象銘柄の発行企業及びその証券に関するアナリスト個人の見解を正確に反映したものであることをここに証明いたします。また、当該アナリストは、過去・現在・将来にわたり、本レポート内で特定の判断もしくは見解を表明する見返りとして、直接又は間接的に報酬を一切受領しておらず、受領する予定もないことをここに証明いたします。

開示事項

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社（以下「MUMSS」）は、MUMSSのリサーチ部門・他部門間の活動及び／又は情報の伝達、並びにリサーチレポート作成に関与する社員の通信・個人証券口座を監視するための適切な基本方針と手順等、組織上・管理上の制度を整備しています。

MUMSSの方針では、アナリスト、アナリスト監督下の社員、及びそれらの家族は、当該アナリストの担当カバレッジに属するいずれの企業の証券を保有することも、当該企業の、取締役、執行役又は顧問等の任務を担うことも禁じられています。また、リサーチレポート作成に関与し未公表レポートの公表日時・内容を知っている者は、当該リサーチレポートの受領対象者が当該リサーチレポートの内容に基づいて行動を起こす合理的な機会を得るまで、当該リサーチに関連する金融商品（又は全金融商品）を個人的に取引することを禁じられています。

アナリストの報酬の一部は、投資銀行業務収入を含むMUMSSの収益に基づき支払われます。

MUMSS及びその関連会社等は、本レポートに記載された会社が発行したその他の経済的持分又はその他の商品を保有することがあります。MUMSS及びその関連会社等は、それらの経済的持分又は商品についての売り又は買いのポジションを有することがあります。

MUMSS・その他MUFG関連会社、又はこれらの役員、提携者、関係者及び社員は、本レポートに言及された証券、同証券の派生商品及び本レポートに記載された企業によって発行されたその他証券を、自己の勤定もしくは他人の勤定で取引もしくは保有したり、本レポートで示された投資判断に反する取引を行ったり、マーケットメーカーとなったり、又は当該証券の発行体やその関連会社に幅広い金融サービスを提供しもしくは同サービスの提供を図ることがあります。

MUMSSの役員（以下、会社法（平成17年法律第86号）に規定する取締役、執行役、又は監査役又はこれらに準ずる者をいう）は、次の会社の役員を兼任しています：三菱UFJフィナンシャル・グループ、カブドットコム証券、三菱倉庫。

免責事項

本レポートは、MUMSSが、本レポートを受領されるMUMSS及びその関連会社等のお客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券の売買の推奨あるいは特定の証券取引の勧誘、申込みを目的としたものではありません。

本レポート内でMUMSSに言及した全ての記述は、公的に入手可能な情報のみに基づいたものです。

本レポートの作成者は、インサイダー情報を使用することも、当該情報を入手することも禁じられています。MUMSSは株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下「MUFG」）の子会社等であり、MUMSSの方針に基づき、MUFGについては投資判断の対象としておりません。

本レポートは、MUMSSが公的に入手可能な情報のみに基づき作成されたものです。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性、信頼性が客観的に検証されているものではありません。本レポートはお客様が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。また、MUMSS及びその関連会社等は本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、また、MUMSSは本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。ここに示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、当社自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について当社は一切責任を負いません。

当社は、本レポートの論旨と一致しない他のレポートを発行している、或いは今後発行する場合があります。また、MUMSSは関連会社等と完全に独立してレポートを作成しています。そのため、本レポート中の意見、見解、見通し、評価及び目録株価は、異なる情報源及び方法に基づき関連会社等が別途作成するレポートに示されるものと乖離する場合があります。

本レポートで直接あるいは間接に採り上げられている有価証券は、価格の変動や、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがあります。また、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。本レポートにて言及されている投資やサービスはお客様に適切なものであるとは限りません。お客様は、独自に特定の投資及び戦略を評価し、本レポートに記載されている証券に関して投資・取引を行う際には、専門家及びファイナンシャル・アドバイザーに法律・ビジネス・金融・税金その他についてご相談ください。

MUMSS 及びその関連会社等は、お客様が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる結果のいかなるもの（直接・間接の損失、逸失利益及び損害を含むがこれらに限られない）についても一切責任を負わないと共に、本レポートを直接・間接的に受領するいかなる投資家に対しても法的責任を負うものではありません。

本レポートの利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。

過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、又は保証するものではありません。特に記載のない限り、将来のパフォーマンスの予想はアナリストが適切と判断した材料に基づくアナリストの予想であり、実際のパフォーマンスとは異なることがあります。従って、将来のパフォーマンスについては明示又は黙示を問わずこれを保証するものではありません。

本レポートの利用に際しては、上記の一つ又は全ての要因あるいはその他の要因により現実的もしくは潜在的な利益相反が起こりうることをご認識ください。なお、MUMSS は、会社法第 135 条の規定により自己の勘定で MUFG 株式の売買を行うことを禁止されています。

本レポートで言及されている証券等は、いかなる地域においても、またいかなる投資家層に対しても販売可能とは限りません。本レポートの配布及び使用は、レポートの配布・発行・入手可能性・使用が法令又は規則に反する、地方・州・国やその他地域の市民・国民、居住者又はこれらの地域に所在する者もしくは法人を、対象とするものではありません。

英国及び欧州経済地域: 本レポートが英国において配布される場合、本レポートは MUFG のグループ会社である MUFG Securities EMEA plc (以下「MUS(EMEA)」)。電話番号: +44-207-628-5555)により配布されます。MUS(EMEA)は、英国で登録されており、Prudential Regulation Authority (プルーデンス規制機構、「PRA」)の認可及び Financial Conduct Authority (金融行動監視機構、以下「FCA」)と PRA の規制を受けています(FS Registration Number 124512)。本レポートは、professional client (プロ投資家)又は eligible counterparty (適格カウンターパーティー)向けに作成されたものであり、FCA 規則に定義された retail clients (リテール投資家)を対象としたものではありませんので、誤解を回避するため、同定義に該当する顧客に交付されてはならないものです。MUS(EMEA)は、本レポートを英国以外の欧州連合加盟国においても professional investors (若しくはこれと同等の投資家)に配布する場合があります。本レポートは、MUS(EMEA)の組織上・管理上の利益相反管理制度に基づいて作成されています。同制度には投資リサーチに関わる利益相反を回避する目的で、情報の遮断や個人的な取引・勧誘の制限等のガイドラインが含まれています。本レポートはルクセンブルク向けに配布することを意図したものではありません。

米国: 本レポートは Mitsubishi UFJ Morgan Stanley Securities Co., Ltd. (以下「MUMSS」)によって作成されたものです。MUMSS は日本で証券業務の認可を取得しております。本レポートが米国において配布される場合、本レポートは MUFG のグループ会社である MUFG Securities Americas Inc. (以下「MUSA」)。電話番号: +1-212-405-7000)により配布されます。MUSA は、United States Securities and Exchange Commission (米国証券取引委員会)に登録された broker-dealer (ブローカー・ディーラー)であり、Financial Industry Regulatory Authority (金融取引業規制機構、「FINRA」)による規制を受けています (SEC# 8-43026; CRD# 19685)。本レポートが MUSA の米国外の関連会社等により米国内へ配布される場合、本レポートの配布対象者は、1934 年米国証券取引所法の規則 15a-6 に基づく major U.S. institutional investors (主要米国機関投資家)に限定されております。本レポートは証券の売買及びその他金融商品への投資等の勧誘を目的としたものではありません。また、いかなる投資・取引についてもいかなる約束をもするものでもありません。本レポートが米国で大手機関投資家以外の個人に配布される限りにおいて、MUSA は以下の条件のもとでその内容について責任を負っています。本レポートの執筆者であるアナリストは、リサーチアナリストとして FINRA への登録ないし FINRA の資格取得を行っておらず、MUSA の関係者ではない場合があります。したがって、調査対象企業とのコミュニケーション、パブリックアピランス、アナリスト本人の売買口座に関する FINRA の規制に該当しない場合があります。FLOES は MUSA の登録商標です。

IRS Circular 230 Disclosure (米国内国歳入庁 回示 230 に基づく開示): MUSA は税金に関するアドバイスの提供は行っていません。本レポート内(添付文書を含む)の税金に関する記述は MUSA 及び関連会社以外の個人・法人が本レポートにおいて研究する事項に関する勧誘・推奨を行う目的、又は米国納税義務違反による処罰を回避する目的で使用することを意図したのではなく、これらを目的とした使用を認めておりません。

日本: 本レポートが日本において配布される場合、その配布は MUFG のグループ会社であり、金融庁に登録された金融商品取引業者である MUMSS (電話番号: 03-6742-4550)が行います。

シンガポール: 本レポートがシンガポールにおいて配布される場合、本レポートは MUFG のグループ会社である MUFG Securities Asia (Singapore) Limited (以下「MUS(SPR)」)。電話番号: +65-6232-7784)とのアレンジに基づき配布されます。MUS(SPR)はシンガポール政府の承認を受けた merchant bank であり、Monetary Authority of Singapore (シンガポール金融管理局)の規制を受けています。本レポートの配布対象者は、Financial Advisers Regulation の Regulation 2 に規定される institutional investors、accredited investors、expert investors に限定されます。本レポートは、これらの投資家のみによる使用を目的としており、それ以外の者に対して配布、転送、交付、頒布されてはなりません。本レポートが accredited investors 及び expert investors に配布される場合、MUS(SPR)は Financial Advisers Act の次の事項を含む一定の事項の遵守義務を免除されます。第 25 条: 一定の投資商品に関してファイナンシャル・アドバイザーが全ての重要情報を開示する義務、第 27 条: ファイナンシャル・アドバイザーが合理的な根拠に基づいて投資の推奨を行う義務、第 36 条: ファイナンシャル・アドバイザーが投資の推奨を行う証券に対して保有する権利等について開示する義務。本レポートを受領されたお客様で、本レポートから又は本レポートに関連して生じた問題にお気づきの方は、MUS(SPR)にご連絡ください。

香港: 本レポートが香港において配布される場合、本レポートは MUFG のグループ会社である MUFG Securities Asia Limited (以下「MUS(ASIA)」)。電話番号: +852-2860-1500)とのアレンジに基づき配布されます。MUS(ASIA)は Hong Kong Securities and Futures

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

Ordinance に基づいた認可、及び Securities and Futures Commission（香港証券先物取引委員会；Central Entity Number AAA889）の規制を受けています。本レポートは Securities and Futures Ordinance により定義される professional investor を配布対象として作成されたものであり、この定義に該当しない顧客に配布されてはならないものです。

その他の地域：本レポートがオーストラリアにおいて配布される場合、MUS(ASIA)又は MUS(SPR)により配布されています。MUS(ASIA)は Australian Securities and Investment Commission (ASIC) Class Order Exemption CO 03/1103 に基づき、Corporations Act 2001 が定める金融サービスの提供者によるオーストラリア金融業免許の保有義務を免除されています。MUS(SPR)は ASIC Class Order Exemption CO 03/1102 により同様に義務を免除されています。本レポートはオーストラリアの Corporations Act 2001 に定義される wholesale client のみを配布対象としております。本レポートがカナダにおいて配布される場合、本レポートは MUS(EMEA)又は MUSA により配布されます。MUS(EMEA)および MUSA は international dealer exemption の措置により次の各州において金融取引業者としての登録を免除されています：アルバータ州、ケベック州、オンタリオ州、ブリティッシュ・コロンビア州、マニトバ州（MUS(EMEA)のみ）。本レポートはカナダにおける National Instrument 31-103 によって定義された permitted client のみを配布対象としております。

又は本レポートは、インドネシアにおいて複製・発行・配布されてはなりません。また中国（中華人民共和国「PRC」を意味し、PRC の香港特別行政区・マカオ特別行政区、及び台湾を除く）において、複製・発行・配布されてはなりません（ただし、PRC の適用法令に準拠する場合は除きます）。

本レポートは、米国、日本やその他の証券規制法規により配付を制限されている投資家、および個人投資家を対象にしたものではありません。

債券取引には別途手数料はかかりません。手数料相当額はお客様にご提示申し上げる価格に含まれております。

Copyright © 2017 Mitsubishi UFJ Morgan Stanley Securities Co., Ltd. All rights reserved.

本レポートは MUMSS の著作物であり、著作権法により保護されております。MUMSS の書面による事前の承諾なく、本レポートの全部もしくは一部を変更、複製・再配布し、もしくは直接的又は間接的に第三者に交付することはできません。

〒100-8127 東京都千代田区大手町1丁目9番2号 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 リサーチ部

（商号） 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2336号

（加入協会）日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。